

CLINIC COSMETIC NEWS

Clinic Cosmetic News

クリニックのための化粧品情報誌
『クリ・コス・ニュース』

2008 March
V O L U M E . 0 0 1

創刊

春 浅く — まだまだ保湿、 そろそろ洗顔

明るい色、軽い素材の春のファッションに袖を通すか、朝晩の冷え込みが気になってまだもうしばらく、と暖かい冬服を選ぶか。日々、着る物に迷う季節の変わり目は、肌の手入れにも要注意の時期です。乾燥を避けつつ、春風に舞うほこりや花粉はすっきりさっぱり洗い流す。上手な洗顔のテクニックを身につけて、やわらか春肌つくりましょう。

face-washing

「こすらない」が

洗顔の極意その1

健康で美しい肌づくりのファースト・ステップは、洗顔。油分を含んだメーキャップ化粧品をクレンジング剤で落とし、次に水溶性の汚れを洗い流す。これをダブル洗顔といいますが、ここでは狭義の洗顔、つまり「石鹸の類の洗顔剤を使って、皮脂や汗、それらに付着したほこりなどの、水溶性の汚れを洗い落とすこと」にポイントを絞ります。

洗顔において大切なのは、まず刺激を与えない、言い換えるなら、こすらないこと。汚れはこすのではなく、泡で包みこんで洗い流せばいいのです。

そのために、洗顔剤はしっかり泡

立てて使います。手指だけで難しいならネットやスポンジなど使って、きめ細かいクリーム状の泡をつくり、その泡を肌のにせませます。顔全体に行き渡らせるよう泡を肌になじませたら、洗い残しに注意しつつぬるま湯で十分にすすぎ落とします。もちろん、すすぎの際もタオルドライの際も、「こすらない」は守りましょう。

「きちんと洗って潤い残す」

極意その2は 新AP5フェイスフォーム

洗顔において大切なもう一つのポイントが、汚れや不要な皮脂はしっかり落としつつ、必要な潤いを残すことです。ぬるま湯すすぎもそのため。水では皮脂汚れが落ちにくく、熱いお湯では洗顔後に乾燥を招くか

ら、だからぬるま湯、なのです。

洗顔剤も同様に、汚れや余分な皮脂は洗い落として、なおかつ乾燥させない、という一見矛盾した命題に応えるものを選ぶ必要があります。

この春おすすめしたいのが、AP5フェイスフォーム。これまで、比較的さっぱり系の洗顔剤としてご愛用いただいていたのですが、リニューアルしてさっぱり感と同時に、保湿力の点でも優れた製品になりました。



泡立ち良く刺激少なく 保湿機能もアップ

従来からの成分のひとつVCIP(ビタミンC誘導体)は水道水中の塩素から肌を保護。新しく加わったグリコシルトレハロースはトウモロコシでんぷん由来の保湿剤で、きめ細かい弾力のある泡をつくります。他にもエルデュウ、リビジュア、ムクロジエキスなどが加わり保湿機能が強化しました。

潤いキープはラメラが叶える

moisturize

洗顔は汚れや余分な皮脂を除く、いわばマイナスのスキンケア。そして洗顔後に今度は、潤いを与えるプラスのスキンケアが必要になってきます。潤いつまり水分を肌に留めるためには、油脂分が不可欠です。水分と油脂分を補う保湿ケアに関して、今、話題になっているのが「ラメラ」という言葉。長時間の保湿を可能にするラメラ構造のメカニズムを探ってみます。

実はヒトの皮膚にもある ラメラ構造

皮膚は表皮、真皮、皮下組織の3層から成り、さらにそのうちの表皮は角質層、顆粒層、有棘細胞層、基底細胞層の4層で構成されています。皮膚のもっとも外側にある角質層が、紫外線やほこり、摩擦といった外部からの刺激、あるいは温度や湿度の変化から皮膚を守る役割を果たしていることは、よく知られています。

同時に角質層は、皮膚に必要な水分を外に逃がさず内に留める役割も担っています。つまり角質層は、外敵に対するバリアであり、保湿の要でもあるのです。

角質層の水分保持機能は、皮脂膜とNMF(天然保湿因子)、角質細胞間脂質によって果たされています。皮脂膜は皮膚表面を覆って水分の蒸散を

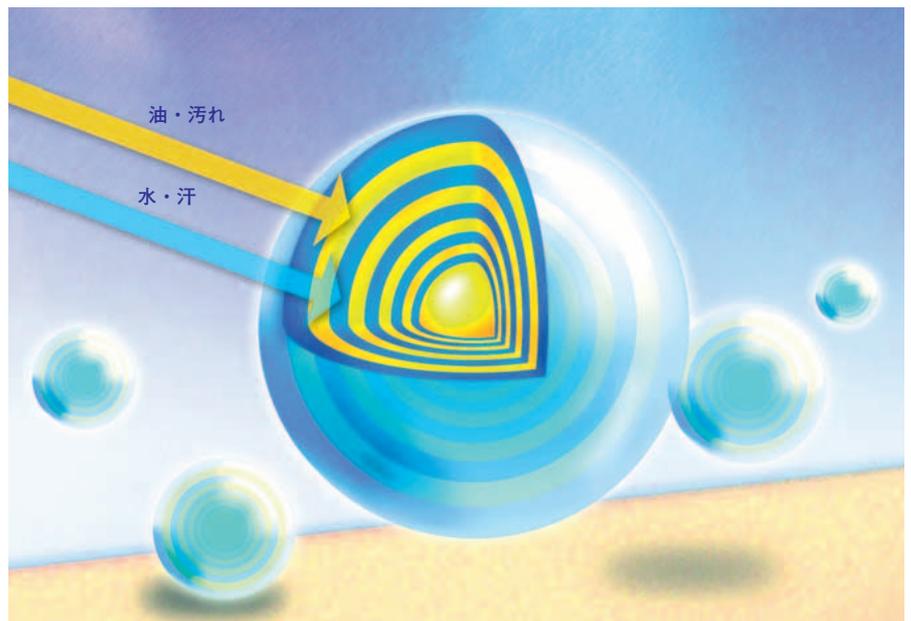


図1：ラメラ構造の乳化粒子…汗や水が水溶性成分、油性汚れが油性成分と結びつき、乳化粒子の外側からはがれ落ちていくが、多層のため全部はがれるのには時間がかかり、クリームは長く肌に留まる

防いでいます。NMFの多くは角質細胞内にあって、吸湿性に優れ、しかも一度とらえた水分を長く繋ぎ止める性質を持っています。

ただ、NMFは水溶性の成分なので、そのままでは水に溶けて流出してしまいます。それを防いでいるのが、角質細胞の周囲にある細胞間脂質。角質細胞同士の隙間を埋め、またそれぞれを結びつけるものですが、細胞の中のNMFは、この角質細胞間脂質に囲まれ守られているのです。

このように皮膚の水分保持機能において大きな役割を果たしている角質細胞間脂質こそが、実はラメラ構造を持っているというわけです。

水と油のミルフィーユ だから保湿効果が高い!

ラメラ (lamella) とは元々、薄い板、薄い膜、薄い層といった意味です。角質細胞間脂質の主成分はセラミドですが、水分になじみやすい親水部分と、油になじみやすい親油部分から成り、親油部分同士を内側に、親水部分を外側にして、2層が重なっています(図2)。この2重層がさらにいくつも重なっているのが角質細胞間脂質で、それぞれの2重層と2重層の間には水分が挟まれています。つまり、脂質 - 水分 - 脂質 - 水分 - 脂質…とまるでミルフィーユのように、

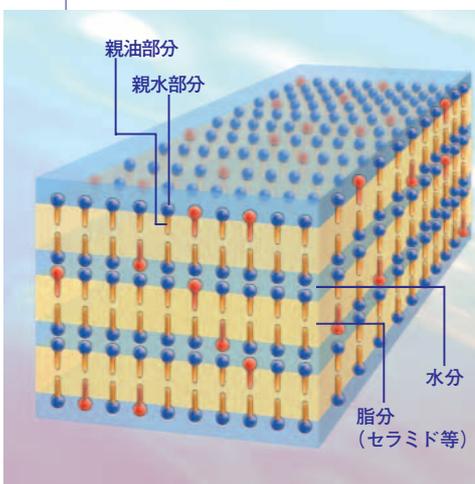


図2：角質細胞間脂質のラメラ(多層)構造

何層にも薄い層が重なっているのです。これをラメラ構造といいます。

角質細胞間脂質はNMFを守るだけでなく、ラメラ構造のおかげで、それ自体にたっぷりの水分を抱え込んでいます。ですからラメラ構造が乱れると、皮膚から水分が失われやすくなり、乾燥を招いてしまいます。

ラメラ構造は理想的な水分保持メカニズムということなのです。近年、その研究が進み、角質細胞間脂質と同じようなラメラ構造を作る乳化技術が、開発されました。

この技術により、油分に挟まれ守られて蒸発しにくい水分を含んだクリームが作れるようになったのです。従来の一般的なクリームは油分と水分の単層構造粒子から成るものでしたが、油分と水分が何層にも重なったラメラ構造の粒子(図1)から成る新世代のクリームは、保湿機能の点ではるかに優れたものとなりました。

AP5クリームと、
ビオリッチクリームがラメラ

ITO製品の中では、リニューアルしたAP5クリームと、全身用のビオリッチクリームが、ラメラ構造粒子のクリームです。ラメラのクリームが優れている点は、まず、皮膚にあるラメラ構造と同じ保湿メカニズムであるため、とても肌なじみがいいこと。皮膚の中のラメラ構造が乱れたり壊れたりしている場合にも、ラメラのクリームを使えば、代替機能を発揮して、正常な皮膚に近い保湿力をキープすることができます。

また、多層の中に水分も油分も同時にたっぷり含んでいるため、水分は蒸散しにくく、潤いが長時間保たれます。そしてクリームが長く肌に留まることで、有効成分は、より深層に達して効果を発揮できるのです。



ラメラ構造で潤い持続、有効成分も効果発揮

従来の単層粒子クリームとの大きな違いは、油溶性、水溶性いずれの成分も、より長時間肌に留まり、より深層にまで達して効果を発揮する点。油性の汚れが親油部分と、汗や水などが親水部分と結びついて、はがれ落ちていくのは多層粒子の外側から1層ずつ(図1)だからです。配合されたVCIP(ビタミンC誘導体)等の成分も、しっかり肌に取り込まれます。



なめらかにしっとり

顔にも体にも使える保湿クリームです。皮膚の代謝に係わるビオチンやパンテノール、炎症を抑える成分等を配合しています。さらにセラミド類やヒアルロン酸、リピジュアなど、皮脂膜や細胞間脂質、NMFに類似した成分を含み、ラメラ構造によって皮膚とよく似たバリア機能・水分保持機能を実現。乾燥を防ぎます。



化粧品原料
TOPICS

ホホバオイル JOJOBA OIL

原産地では古くから、皮膚の薬用に…

ホホバオイルは、メキシコ北部の砂漠地帯原産の樹高2メートルほどの常緑低木ホホバの、種子から絞って得られる天然の植物性オイルです。メキシコ原産ということで、ホホバ(jojoba)という名前はスペイン語。原産地では、古くから薬として用いられてきました。乾燥した皮膚に油分を補って和らげたり、余分な汚れを除いてフケやニキビ、切り傷を治したりする作用のあることが、知られていたからです。

現在では、化粧品に使われるオイルとしてもなじみ深いものとなっています。ホホバオイルには「砂漠の鯨」という不思議な別名もあるのですが、これは、かつては化粧品に使われる油分の原料として、マッコウクジラオイルが一般的だったことに



ちなみです。近代になり、捕鯨禁止を待つまでもなく、鯨油が生活用品に使われることは少なくなりました。そこで、化粧品用として鯨油に取って代わるオイルのひとつとして選ばれたのが、ホホバオイルだったのです。鯨油のような魚臭い匂いもなく、感触も肌心地よく、重宝されています。



「砂漠の鯨」は、オイルではなくワックスだった!?

ホホバオイルと呼ばれていますが、むしろワックスの1種なので、ベタつかずにサラッとよく伸び使いやすいのです。分子構造が皮膚の細胞構造と似ており、浸透性に優れ人体への刺激や毒性もありません。医療分野で人工心臓の潤滑油として使われ、アロマセラピーのキャリアオイルとしてもポピュラー。非常に安全・安心な原料です。ビタミンCやEなどの同じオイル成分を皮膚内に誘導する作用があり、相乗効果も期待できます。

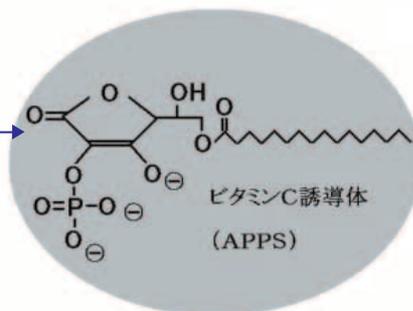
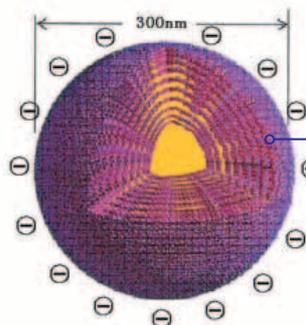
CoQ10、アスタキサンチンがイオン導入できる APPSで作られたナノカプセル

●●●●● オーダーメイドで様々な物質を包摂できます。 ●●●●●

カプセルシリーズの特徴

アスコルビン酸リン酸パルミテート (APPS) やTPNa は両親媒性物質でありセラミドやリン脂質と同様にカプセル皮膜剤として液晶構造で乳化させることができます。この現象をさらに進化させAPPSやTPNaを皮膜剤としたナノカプセルを作ることがI.T.Oのプロビタミンセンターの技術により可能となりました。これらのナノカプセル製剤をナノミック製剤と名づけました(特許

出願中)。ナノミックの直径はおよそ300nm (最小100nm) で水、油、水、油………のラメラ構造を有するため脂質層にはオイルを、水層には水溶性活性成分を配合することができます。ナノミックの脂質層にCoQ10やアスタキサンチンを水層にアミノ酸などの水溶性成分を配合して安定化させることができます(注意: ナノミックに配合できない物質もあります)。



ラメラ構造ナノカプセル

ナノミックはAPPSやTPNaの持っているマイナスに帯電した親水性の酸素が表面に配位しているためナノミックの表面はマイナスに帯電したナノカプセルとして水中に分散させることができます。このためイオン導入器などで電圧をかけることにより容易に電気泳動現象を生じます。つまりナノミックで包摂された抗酸化オイルや非イオン性物質をナノミックに包摂することによりイオン導入することが可能となります。ナノミックシリーズは、現在5種類用意しておりますがお客様のニーズに合わせてオーダーメイドも可能です。

これが
ヘアチド最前線
進化遂げた
「ヒアルロン酸」

プロビタミンCで
肌力アップ



株式会社 アイ・ティー・オー
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7 朝日生命三鷹ビル3F
Phone 0422-60-3434 Facsimile 0422-60-3435
E-mail ito@provitamin.jp

Phone 0120-31-6588
Facsimile 0120-83-6566

[http:// www.provitamin.jp](http://www.provitamin.jp)